



令和元年度 まち・ひと・しごと創生

高知イノベーションシステム

報告書



はじめに

平成25年度から始まった文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」（COC）において、「高知大学インサイド・コミュニティ・システム（KICS）化事業」を実施してきました。高知県産業振興推進本部との連携を密接にし、高知県と高知大学とが一堂に会する『高知県地域社会連携推進本部』のもと、県内全域の地域振興に取り組んできました。東西に広い県内をカバーする、UBC：高知大学地域コーディネーター教員4名が常駐するサテライトオフィスを設置し、地域課題の抽出と解決に向き合ってきました。

その取り組みに加えて、平成27年度からは、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC+）に高知県立大学、高知工科大学、高知工業高等専門学校との連携を強化する形で、「まち・ひと・しごと創生 高知イノベーションシステム」がスタートして5年が経過しました。本事業の推進のために、参加高等教育機関および高知県、土佐経済同友会、高知県中小企業家同友会、高知県工業会、高知県経営者協会が一堂に会する『大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部会議』を設置し、学生の地元就職率を高めると同時に、雇用創出のための様々な取り組みを実施してきたところです。

なかでも、学生の地域理解と愛着心を育てることで、地域で活躍する人材（ローカル・イノベーター）を輩出していこうとする地方創生推進士の育成では、経営者、自治体トップ、行政機関のみならずのご協力でインターンシップでの学びを深めるようなプログラムを経て、当初の目標を上回る106名の地方創生推進士が誕生しました。

また、雇用創出事業のひとつである「こうち観光カレッジ」では、観光カリスマの山田桂一郎氏より最初の講義としてマーケティングとマネジメントの視点からご講演いただきました。観光を中核的に担う人材が育ち、3期に及ぶ修了生ネットワーク42名のなかから、修了生と一緒に観光関連企業で誘客をする事例も出てきました。

COC/ COC+の活動を通じて実現した、産学官民でつくる地域連携のプラットフォームは、人口減少が続く高知に不可欠なものになりました。

令和元年度でCOC+事業は一つの区切りを迎えますが、これからも、活発な協働を基盤に、地方創生のために奮闘努力を重ねていきます。今後ともよろしくお願いいたします。

国立大学法人 高知大学
理事（地域・国際・広報・IR担当） 副学長
まち・ひと・しごと創生 高知イノベーションシステム
事業責任者

受田 浩之



目次



はじめに

| | | |
|-------------|---------------------------------------|----|
| まち・ひと・しごと創生 | 高知イノベーションシステムの概要 | 4 |
| 事業実施体制 | 1 大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部 | 6 |
| | 2 教育プログラム開発委員会 | 8 |
| | 3 組織体制 | 9 |
| 事業活動報告 | 1 地方創生推進士の活動 | 10 |
| | 2 県内就職率向上 | 12 |
| | ①えんむすび隊 | 12 |
| | ②土佐FBC部分受講 | 14 |
| | ③社長インターンシップ | 16 |
| | ④高知市長インターンシップ | 17 |
| | ⑤高知財務事務所長インターンシップ | 18 |
| | ⑥高知行政監視行政相談センターインターンシップ | 18 |
| | ⑦UBCインターンシップ | 19 |
| | ⑧コラボ考房プロジェクト | 20 |
| | 3 雇用創出 | 22 |
| | ①食品産業人材育成事業 | 22 |
| | ②観光人材育成事業 | 25 |
| | ③起業支援事業 | 28 |
| | 4 全国ネットワーク化事業 令和元年度COC+全国シンポジウム | 29 |
| | 5 第4回全国COC+推進コーディネーター会議 | 29 |
| 参加大学活動状況 | 1 高知県立大学 | 30 |
| | 2 高知工科大学 | 32 |
| | 3 高知工業高等専門学校 | 35 |
| 評価 | 1 外部評価 | 37 |
| | 2 現地視察 | 38 |
| まとめ | | 39 |

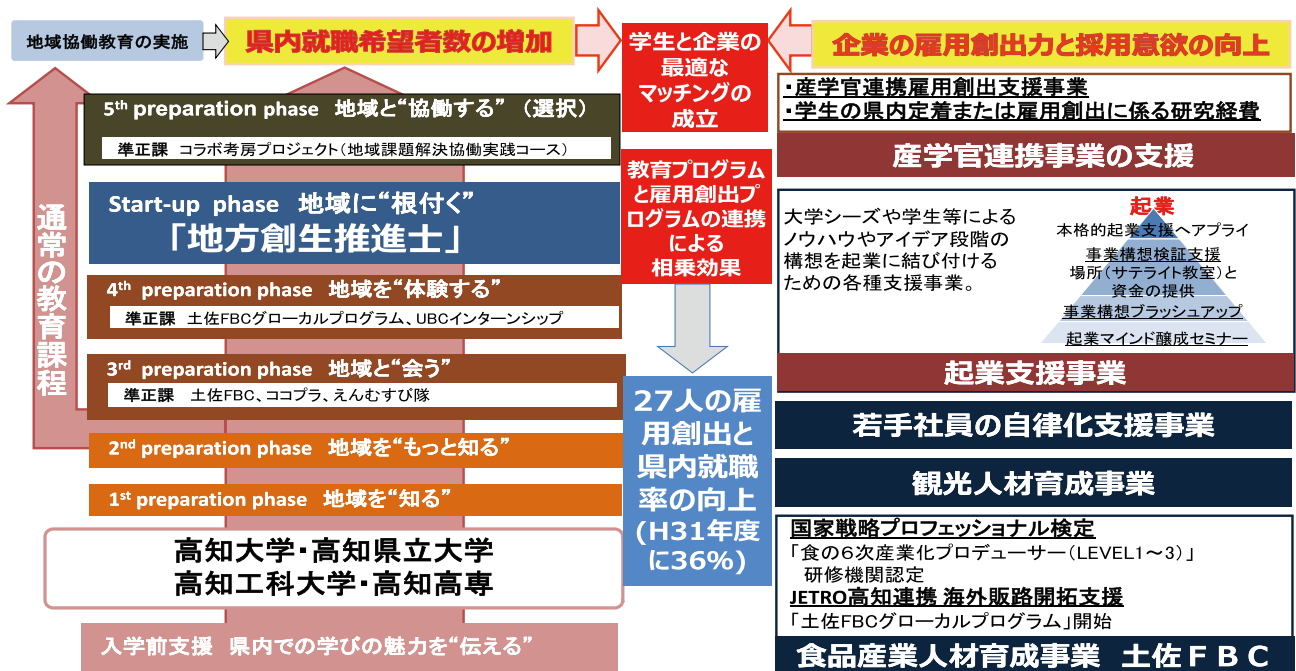
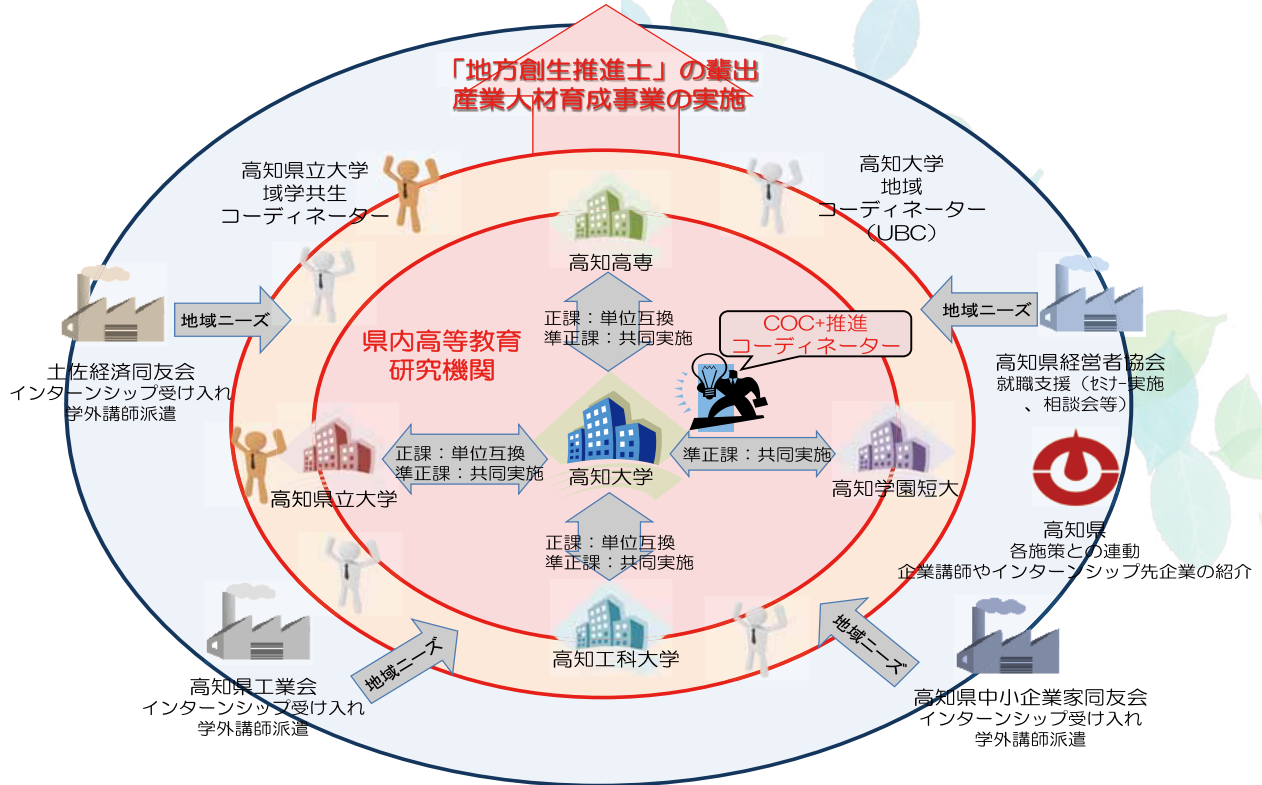
まち・ひと・しごと創生 高知イノベーションシステムの概要

中小零細企業が大多数を占める高知県では、学生は県内企業の事業内容や独自技術に対する知識が無く、教育機会も少ない。また、産業基盤が脆弱で有効求人倍率が低く、学生の就職先は県外が中心である。この動きに歯止めをかけるべく、学生が地域を“知り”、地域と“会い”、仕事を“体験し”、“協働する”一連のプログラムを創出し、地域に対する深い理解と愛情を持った学生「地方創生推進士」を育成する。さらに、企業の人材育成と産学官連携を促進するプログラムを構築することで雇用創出力と採用意欲を高めて、県全体の産業振興にも貢献する。両プログラムを連動させることで、学生に優れた社会教育機会を提供すると共に、「地方創生推進士」の県内企業との適切なマッチングを図る。

本事業を県内全ての大学等が結集して実行することで、「しごと」を創り、「ひと」を育て、「まち」の持続的発展を担保する、高知型のソーシャルイノベーションが創出される。



事業協働地域への就職率向上・企業等の雇用創出支援



卒業後には地域に定着し、地域の中核人材として活躍

(カリキュラムマップの例)

| 分類 | 代表的科目例 | 準正課例 |
|---------|-----------------------------------|---------------------------|
| 第4phase | プロジェクトマネジメント演習 事業企画プロジェクト実習 | 社長インターンシップ UBCインターンシップ |
| 第3phase | 地域理解実習 地域協働企画立案実習 | 土佐FBC部分講義 えんむすび隊 |
| 第2phase | 地域組織論 地域資源管理論 | |
| 第1phase | 課題探究実践セミナー 高知の中小企業を知る 地域協働論 | |

3年生
2年生
1年生

1 大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部

大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部の事業運営として、平成31年度(令和元年度)は、大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部会議を5回開催し、県内高等教育機関、高知県及び地域産業界と「まち・ひと・しごと創生 高知イノベーションシステム」の事業運営について協議を行いました。

● 第1回 大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部会議(メール会議)

【開催日時】平成31年4月11日(木)～平成31年4月15日(月)

【主 議 題】 ● 大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部要項の一部改正について

● 第2回 大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部会議

【開催日時】令和元年6月3日(月) 13:30～15:10

【主 議 題】 ● 平成30年度事業目標値について
● 地方創生推進士に関する広報物について
● 将来構想検討WG取りまとめについて

● 第3回 大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部会議

【開催日時】令和元年11月1日(金) 9:00～10:40

【主 議 題】 ● 令和元年度前期「地方創生推進士」の認証について
● 令和元年度末に向けての取組みについて
● 本事業の補助期間(H27～H31)終了後の取組みについて
● 平成31年度(令和元年度)外部評価委員会について
● 令和元年度フォローアップ現地視察について

● 第4回 大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部会議

【開催日時】令和2年1月31日(金) 9:30～11:05

【主 議 題】 ● 将来構想検討WGによる提言書
● 県内大学生等の県内就職率のKPI等について
● 「まち・ひと・しごと創生 高知イノベーションシステム」に関する連携協定書の改定について
● 大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部要項の改定について
● 各機関への事業継続に関する照会票について
● 地方創生推進士に関する広報誌について
● 就職マッチング支援状況について
● 今後のスケジュールについて

◎ 第5回 大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部会議

【開催日時】 令和2年3月11日 (水) 16:30~18:05

【主 議 題】 ● 令和元年度後期地方創生推進士の認証について

- 次年度の継続について
 - ・ 専門委員会の設置について
 - ・ 協定のあり方について
 - ・ 本部要項について
- 補助事業実施状況報告について
- 大学による地方創生人材教育プログラム構築事業について
- 大学以外の事業協働機関による事業への満足度調査について



大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部会議委員名簿

平成31年4月1日現在

| 機 関 名 | 役 職 等 | 氏 名 |
|-------------|---------------------|-------|
| 高知大学 | 理事 (地域・国際・広報・IR 担当) | 受田 浩之 |
| 高知大学 | 次世代地域創造センター長 | 石塚 悟史 |
| 高知県立大学 | 地域教育研究センター長 | 清原 泰治 |
| 高知工科大学 | 地域連携機構長 | 岩田 誠 |
| 高知工業高等専門学校 | 副校長 (研究担当) | 岸本 誠一 |
| 高知学園短期大学 | 教務部長 | 吉村 斉 |
| 高知県 | 産業振興推進部長 | 井上 浩之 |
| 高知県 | 商工労働部長 | 近藤 雅宏 |
| 土佐経済同友会 | 副代表幹事 | 佐竹 新市 |
| 高知県中小企業家同友会 | 代表理事 | 安岡 浩史 |
| 高知県工業会 | 常務理事・事務局長 | 西内 豊 |
| 高知県経営者協会 | 専務理事 | 長瀧 正隆 |

2 教育プログラム開発委員会

平成31年度(令和元年度)は、教育プログラム開発委員会を2回開催し、地方創生推進士科目の充実・整備を行い、地方創生推進士の育成に取り組みました。その結果、参加校である高知県立大学の学生を含み本年度のみで、38名の「地方創生推進士」が誕生しました。

● 第1回 教育プログラム開発委員会

【開催日時】 令和元年10月3日(木) 14:00~14:55

【主 議 題】 ● 令和元年度前期「地方創生推進士」の資格審査について

- 平成31年度補助事業実施状況報告について
- 平成30年度フォローアップについて

● 第2回 教育プログラム開発委員会

【開催日時】 令和2年3月6日(金) 15:00~15:30

【主 議 題】 ● 令和元年度後期「地方創生推進士」の資格審査について

- 令和2年度開講地方創生推進士育成科目について
- 平成31年度補助事業実施状況報告について
- 平成31年度第4回大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部会議報告について



教育プログラム開発委員会委員名簿

平成31年4月1日現在

| 機 関 名 | 役 職 等 | 氏 名 | 備 考 |
|------------|-----------|--------|----------|
| 高知大学 | 理事(教育担当) | 奥田 一雄 | 第3条第1号委員 |
| 高知県立大学 | 教務部長 | 長戸 和子 | 第3条第2号委員 |
| 高知工科大学 | 教育センター長 | 古沢 浩 | 第3条第3号委員 |
| 高知工業高等専門学校 | 教務主事(副校長) | 竹島 敬志 | 第3条第4号委員 |
| 高知学園短期大学 | 教務部長 | 吉村 斉 | 第3条第5号委員 |
| 株式会社ヒワサキ | 相談役 | 日和崎 二郎 | 第3条第6号委員 |

3 組織体制

平成27年11月に本学地域連携推進センター内に地方創生推進部門を設置するとともに事務部門として地域連携課内に地方創生推進室を設置して業務運営を開始しました。

平成28年4月からは、COC+推進コーディネーター及び同補佐の2名を迎え、組織体制が整ったことから、事業目標達成に向けた事業活動が進められています。

また、平成30年10月からは、センター改組により、次世代地域創造センター内に地域サステナビリティ部門が設置されました。

連携を図るため、県内高等教育機関担当者が高知県担当者からなる担当者連絡会を平成28年度から、月1回開催して情報の共有等を行っています。

(令和元年度組織体制)

事業推進責任者

| 役 職 | 氏 名 |
|--------------------------|-------|
| 理事(地域・国際・広報・IR担当) 副学長 | 受田 浩之 |

次世代地域創造センター

| 役 職 | 氏 名 |
|-------|-------|
| センター長 | 石塚 悟史 |

地域サステナビリティ部門

| 役 職 | 氏 名 |
|--------------------------------------|-------|
| COC+推進コーディネーター (地域サステナビリティ部門長) | 川竹 大輔 |
| 兼務教員 (地域サステナビリティ部門長) | 吉用 武史 |
| COC+推進コーディネーター (地域サステナビリティ部門専任教員) | 川澤 慶洋 |
| 兼務教員 (UBC) | 赤池 慎吾 |
| 兼務教員 (UBC) | 梶 英樹 |
| 次世代地域創造センター 事務補佐員 | 篠川 佳子 |

地方創生推進室

| 役 職 | 氏 名 |
|----------------------|-------|
| 地方創生推進室長 (地域連携課長) | 芝 弘行 |
| 地方創生推進係長 | 武政 麻美 |
| 地方創生推進係員 | 森田 尚希 |
| // 教務補佐員 | 木下 敦子 |
| // 事務補佐員 | 米花 由佳 |
| // 事務補佐員 | 和田 恵理 |



1 地方創生推進士の活動

● 活躍が軌道に乗ってきた地方創生推進士

「地方創生推進士」は、高知県内の高等教育機関（高知大学、高知県立大学、高知工科大学、高知工業高等専門学校）の教育課程で、地域の住民と積極的に触れ合い地域の課題解決に取り組む経験などを経て、地域への理解と愛情を深め、高知をはじめとする地域で働き貢献したいという学生に与えられる称号です。

地域を知り、地域と会い、仕事を体験し協働する一連の教育プログラムを、第1フェーズから第5フェーズまで設け、地域への理解と愛情を深め、地域に貢献したいとする学生を「地方創生推進士」として認証します。地域の未来をつくる革新力となる人材、すなわちローカル・イノベーターとして期待されています。

平成31年3月までに卒業をして就職をした地方創生推進士31名卒業のうち14名、すなわち45%の学生が県内就職を果たしていて、全体の県内就職率よりも倍近い比率となりました。

令和元年度は社会人の地方創生推進士が共通教育授業「地域キャリア論」でゲスト講師を務めて県内就職・定着の魅力の後輩学生に語ったほか、現役学生の地方創生推進士の活動が活発でした。地方創生推進士取得を推奨するにあたって、1年生から4年生までオリエンテーションなどの機会をいただいで説明をする機会を設けるとともに、すでに地方創生推進士を取得した学生が後輩に声をかける実例もありました。

地方創生推進士の就職受け皿になる企業に対しては、アンケート調査や社長インターンシップの協力依頼、さらに地方創生推進士の活動をSNSなどの媒体を通じて広報をしました

その結果、認証取得に向けた履修指導・教員への協力依頼が積極的に行われたこと、さらに地方創生推進士自らが後輩の学生に働きかけたこともあって、令和元年度の地方創生推進士育成目標数(累計)が当初の想定では100名であったところ、令和2年



受田事業推進責任者と授与者



「地方創生推進士認定証授与式（前期）」集合写真



マスコミ取材のようす



授業で社会人の地方創生推進士がゲスト講師に

3月で106名（高知大学103名、高知工科大学1名、高知県立大学1名、高知工業高等専門学校1名）が「大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部会議」で、想定を上回る若者が地方創生推進士として認定されました。

地方創生推進士のメンバーでは、月に一度ていどの集まりを定期的に行き、「地方創生推進士の認知度を高める」「地方創生推進士として地域に貢献する」「学生と県内企業の交流を盛んにする」ためにできることを話し合っています。

令和元年度は前年度の高知商工会議所青年部と地方創生推進士の意見交換を契機にして、4月には県内中小企業と大学生の交流カフェ「学生空間 One step」が高知大学朝倉キャンパス近くにオープンして、地方創生推進士も定期的に集まって企業との交流企画を相談しています。

地方創生推進士のなかでは、4月28日に路面電車で企業と学生の交流会を企画が実施され、テレビや新聞・SNSで話題になったほか、8月20日には大学生の夢を企業経営者らに聞いていただく「夢トーク」交流イベントを開催しました。

このほか、社会人と地方創生推進士の交流として、高知県経営者協会青年経営者部会の10月例会に参加をする試みがあったほか、地方創生推進士をもっと知るための地方創生推進誌「わたしは地方創生推進士です」の制作にあたっては6名の地方創生推進士が協力をしました。

地方創生推進士の人数が大きく増えるなか、今後の地域での活躍や更なるネットワークづくりを進めています。



地方創生推進士の説明を聞く学生



青年経営者と学生の意見交換会



「夢トーク」にて企業に学生がプレゼン



2 県内就職率向上

① えんむすび隊

○ えんむすび隊とは

えんむすび隊は高知大学の全学生を対象に、随時企画・実施される実践的地域学習です。「地域で学ぶ、地域を学ぶ1日だけのstudyツアー」をテーマに、学生が高知県内の各地域を訪ね、さまざまな体験や地域の方との交流を通して地域の魅力や課題を学び、発見することをねらいとしています。

平成25年度から134回実施されており、750名を超える学生が参加しています。また、必ず教員が引率し、学生にとって地域の方との交流やワークショップ、農業等の体験を通して地域の現状や課題を知り考えるよう学びの機会となるプログラムを設計しています。なお、「えんむすび隊」は「地方創生推進士育成科目」（準正課／第3 phase該当科目）に位置付けられています。

○ 令和元年度実施状況（※令和2年2月末時点）

令和元年度は13企画中11回実施し、135名の学生が参加しています。

| 実施日 | ツアー先 | 内容 |
|--------|------|------------------------|
| 5月11日 | 安田町 | 自然薯の植え付け |
| 5月18日 | 須崎市 | 地域資源である竹の活用について学ぶ |
| 6月9日 | 本山町 | 田んぼアート 田植え手伝い |
| 6月30日 | 四万十町 | 海開きイベントのお手伝い |
| 8月18日 | 中土佐町 | 地域の子ども会と障害や人権を考えた避難訓練 |
| 10月27日 | 越知町 | 町の活性化に向けて魅力を発見 |
| 11月10日 | 中土佐町 | 大正町市場での祭りのお手伝い |
| 12月1日 | 安田町 | 自然薯の収穫 |
| 12月1日 | 本山町 | 三倉神社秋祭りのお手伝い |
| 12月8日 | 安田町 | なかやま山芋まつりのお手伝い |
| 12月15日 | 大豊町 | 銀不老豆の収穫 |
| 1月18日 | 中土佐町 | 大正町市場の楽しみ方を考える |
| 2月20日 | 佐川町 | ひなまつりイベントを通して佐川町について学ぶ |

○ 令和元年度告知ポスター（一部抜粋）



○ 本年度の概観

参加した学生からは「実際にその場所に行き、自然や人、食、産業に触れ、現状課題を知り考えるきっかけとなった」という地域への興味関心をもつ声があり、自ら考えその地域で活動する学生団体を発足させることにも繋がっています。

地域の方や他学部の学生、地元の高校生などと一緒に活動をするうちに「地域の方との交流が楽しみ」「えんむすび隊で仲良くなった」と人の繋がりにも魅力を感じているようです。

また、今年度も中国や台湾をはじめ多くの留学生が参加し、高知県について学ぶとともに、地域や日本人学生にとってもインバウンド観光などの課題について学ぶきっかけとなりました。



5月11日 安田町 地域の皆さんと作った昼食の紹介



12月1日 安田町 自然薯の収穫



5月11日 安田町 自然薯の植え付け作業



8月18日 中土佐町 子どもたちと避難訓練のふりかえり



5月18日 須崎市 竹ブランコ作製



1月18日 中土佐町 地域の方へインタビュー

事業
活動
報告

② 土佐FBC部分受講

食品産業の中核人材として活躍することを願い、土佐FBC（フードビジネスクリエーター）人材創出事業で意欲的に学ぶ社会人と一緒に、学生が机をならべ学習して交流を行う土佐FBC部分受講を、準正課（3フェーズ）の位置づけで開きました。

「商品開発」「食と地域のつながり」（座学で合計20時間ていど、7月から12月開催）の2つのコースのうちから選択して履修するコースを設け、社会人との交流にも参加を促しています。

高知大学農林海洋科学部1名と人文社会科学部2名の合計3名が物部キャンパスで受講し、全員が修了しました。



・本コース全121時間のうち19.5時間を無料で受講できる学生向け準正課プログラム

土佐FBC（フードビジネスクリエーター）

2019年度 部分受講生募集

食品産業を担っていく社会人とともに学び交流しよう

商品開発コース

| 開講日 | 曜日 | 時間 | 科目名 | 時間数 | 講師名 |
|--------|----|-------------|-----------|-----|-----------------|
| 7月2日 | 火 | 18:00~19:30 | フードビジネス概論 | 1.5 | 久塚 智明 |
| 7月12日 | 金 | 18:00~21:00 | マーケティング | 6 | 中島 和代 |
| 7月13日 | 土 | 9:30~12:30 | | | |
| 8月2日 | 金 | 18:00~21:00 | 食品学 | 3 | 森山 洋憲 |
| 8月20日 | 火 | 18:00~21:00 | 食品分析学 | 3 | 栗田 せりか 中島 悦子 |
| 10月29日 | 火 | 18:00~21:00 | 6次産業化論 | 3 | 松田 高政 泉谷 伸司 |
| 11月5日 | 火 | 18:00~21:00 | 食品衛生学 | 3 | 春田 聖史 吉金 優 |

場所：高知大学 物部キャンパス

定員：**4名**

締切：**5月30日(木)**

地域と食のつながりコース

| 開講日 | 曜日 | 時間 | 科目名 | 時間数 | 講師名 |
|--------|----|-------------|-----------|-----|-----------------|
| 7月2日 | 火 | 18:00~19:30 | フードビジネス概論 | 1.5 | 久塚 智明 |
| 7月5日 | 金 | 18:00~21:00 | 食品学 | 3 | 沢村 正義 |
| 8月2日 | 金 | 18:00~21:00 | | | |
| 8月6日 | 火 | 18:00~21:00 | 6次産業化論 | 3 | 峠 篤士 |
| 8月20日 | 火 | 18:00~21:00 | 食品分析学 | 3 | 栗田 せりか 中島 悦子 |
| 10月29日 | 火 | 18:00~21:00 | 6次産業化論 | 3 | 松田 高政 泉谷 伸司 |
| 12月10日 | 火 | 18:00~21:00 | 食品機能学 | 3 | 春田 聖史 水上 元 |

お申込み・お問い合わせ

コラボレーション・サポート・パーク（朝倉キャンパス）木下
TEL：088-844-8932 e-mail: cobo@kochi-u.ac.jp

相談 土佐FBCⅢ企画運営室（物部キャンパス）
TEL：088-864-5138 e-mail: tosa-fbc@kochi-u.ac.jp

上記いずれかのコースを選択し、所定の申請書にご記入の上、期日までにコラボへ提出してください。その後、面接を行い受講者を決定します。※物部キャンパスへの移動は各自でお願いします。※初回授業までにオリエンテーションがあります。※交流プログラムを別途(1回)予定しています。

この準正課は地方創生推進士育成科目の第3フェーズです。

○ 土佐フードビジネスクリエーター人材創出事業 2019年度カリキュラム

| 地域と食のつながりコース | | | | | 合計 19.5時間 |
|------------------|----------|-------------------------|----------------|----------------|---------------------------|
| カリキュラム (大分類) | 科目 番号 | 科目名 | 時間数 | 講師名 | 講師所属 |
| 食品学 (27時間) | 1 | 食品学 (加工・製造・ 基礎化学) | 3 | 沢村 正義 | 高知大学名誉教授 |
| | | | 3 | 中村 文隆 | (株)南国スタイル【土佐FBC1期Aコース修了生】 |
| | | | 3 | 森山 洋憲 | 高知県工業技術センター |
| | | | 9 | 島村 智子 | 高知大学 |
| | 2 | 食品機能学 | 3 | 富 裕孝 | 土佐FBCⅢ |
| | | | 3 | 渡邊 浩幸 | 高知県立大学 |
| 3 | | | 水上 元 | 高知県立牧野植物園 | |
| マネジメント (36時間) | 3 | フードビジネス概論 | 1.5 | 久塚 智明 | (株)FBTプランニング |
| | 4 | 6次産業化論 | 1.5 | 肘井 貴宏 | 旭食品(株) |
| | | | 3 | 窪添 真史 | 旭食品(株)【土佐FBC7期選択受講コース修了生】 |
| | | | 3 | 峠 篤士 | 高知県産業振興センター |
| | | | 3 | 松田 高政 | 土佐FBCⅢ／(株)こうち暮らしの楽校 |
| | | | 3 | 泉谷 伸司 | (有)泉利昆布海産【土佐FBC2期Aコース修了生】 |
| | 5 | マーケティング | 6 | 中島 和代 | (株)なかじま企画事務所 |
| | | | 3 | 安田 雅彦 | (株)電通 |
| | | | 6 | 松田 高政 | 土佐FBCⅢ／(株)こうち暮らしの楽校 |
| | 6 | 経営戦略 | 3 | 久塚 智明 | (株)FBTプランニング |
| | | | 3 | 平島 輝之 | 高知商工会議所 |
| | | | 3 | 奥谷 敦子 | 奥谷商売研究所 |
| 3 | | | 恒川 典之 | 高知大学 | |
| 品質管理 (24時間) | 7 | 食品分析学 | 3 | 栗田せりか 中島 悦子 | 土佐FBCⅢ |
| | | | 3 | 土居 幹治 | マルトモ(株) |
| | | | 3 | 内藤 悦伸 | (株)インテリジェントセンサーテクノロジー |
| | 8 | 食品衛生学 | 3 | 小野 邦桜 | 高知県食品・衛生課 |
| | | | 3 | 食品表示担当 | 高知県農産物マーケティング戦略課 |
| | | | 6 | 富 裕孝 | 土佐FBCⅢ |
| 実 習 (34時間) | 9 | 実験技術 | 18 | 柏木 文拡 | 高知大学 |
| | | | 18 | 栗田せりか 中島 悦子 | 土佐FBCⅢ |
| | | | 18 | 富 裕孝 | 土佐FBCⅢ |
| | | | 16 | 岡本 佳乃 | 高知県工業技術センター |
| | 10 | 現場実践学 | 16 | 下藤 悟 | 高知県工業技術センター |
| | | | 16 | 近森 麻矢 | 高知県工業技術センター |
| | | | 16 | 森山 洋憲 | 高知県工業技術センター |
| | | | 16 | 富 裕孝 | 土佐FBCⅢ |
| Sコース 対象者 | 11 | アドバンスド 課題研究 | 時間 数は 任意 | 富 裕孝 | 土佐FBCⅢ |
| | | | 時間 数は 任意 | 中島 悦子 | 土佐FBCⅢ |
| | | | 時間 数は 任意 | 松田 高政 | 土佐FBCⅢ／(株)こうち暮らしの楽校 |
| | | | 時間 数は 任意 | 栗田せりか | 土佐FBCⅢ |

③ 社長インターンシップ

教育プログラム「地方創生推進士育成科目」(準正課)では、第4フェーズのなかで「社長インターンシップ」を開講しました。

「社長インターンシップ」は、県内で活躍する中小企業経営者や団体トップに密着同行し、企業経営者らの考え方やリーダーシップなどを直接学ぶインターンシッププログラムです。

地域企業の実情に直接触れ、課題の認識と解決のための方策を考えることで、地域に定着して貢献することの意義を自分事として捉えることを目的にしています。

以下の企業団体にご参画いただきました。

株式会社サニーフーズ、四国管財株式会社、株式会社土佐龍馬の里、有限会社戸田商行、特定非営利活動法人土佐山アカデミー、丸和建设株式会社、ミタニ建設工業株式会社、宮地電機株式会社、依光瓦工業有限会社、株式会社高南メディカル、株式会社南の風社、和建设株式会社、株式会社アースエイド、有限会社アフロディア、白川浩平税理士事務所、株式会社リーブル

企業・団体の参画募集にあたっては、COC+の事業協働機関の経済団体の皆様にご協力を頂戴しています。心から感謝申し上げます。

企業への社長インターンシップでは、平成28年度は2事業所4名、29年度は8事業所9名、30年度は11事業所に15名、令和元年度は9事業所に9名の学生が参加をしました。

社長インターンシップの受講学生からは、

- 「社会人の経営者も学びを繰り返していると分かった」
- 「学生が作った企画書に社長が丁寧に意見をくださった」
- 「授業で習った専門用語が思わぬ形で役に立った」
- 「筋道を立てて説明する重要性を実務のなかで認識した」
- 「教わったビジネスマナーを実践して練習することはとても大事だった」
- 「経営者と出かけた講演会で自分の価値観が揺さぶられた」

といった振り返りがありました。

受け入れた経営者の方からは

- 「学生が来てくれることで若手の社員が日常業務を振り返るきっかけとなった」
 - 「しっかりと自分の意見が言える学生だったので、これからも何か応援をしていきたい」
- といった感想が寄せられています。



地鎮祭で建設会社社長と同行お手伝い



一日のインターン終了時のようす



4 高知市長インターンシップ

高知市役所トップの市長に密着同行し、市長を通じて高知市役所の業務を体験するインターンシッププログラム「高知市長インターンシップ」を令和元年度は2月から3月にかけて2回にわたって開きました。

市長の公務への随伴という貴重な体験を通じて、職業観や就労意欲を培い、自らの適職を考えていくとともに、高知市の市政に対する理解を深めていくことを目的としています。

市長の日々の動きや何げない会話から、市役所トップの考え方やリーダーシップなどを学べるプログラムです。また、市長に随行している市役所若手職員からも学ぶことがたくさんあったようです。

市長インターンの募集に対して、高知大学から農林海洋科学部2名、地域協働学部1名、人文社会科学部1名の合計4名の学生が受講しました。令和2年1月に引越したばかりの市役所新庁舎に朝から学生も入って、「忙しくていつも早足で移動する」高知市長に近づけるというインターンシップを体験しました。

インターン終盤になると日程を確保してもらい、市長と懇談する時間をいただけるのも高知市長インターンの特徴です。

5 高知財務事務所長インターンシップ

教育プログラム「地方創生推進士育成科目」(準正課)では、第4フェーズのなかで「高知財務事務所長インターンシップ」を開講しました。

このインターンシップは、財務省高知財務事務所長に密着同行することや若手職員らと交流をすることで、財務事務所の業務を体験するプログラムとなっています。

このインターンシップには4名の高知大学生が参加し、9月17日(火)から24日(火)の5日間に渡って高知財務事務所の業務に携わりました。

初日は財務局の組織・業務の概要などを学び、2日目からは財政融資制度を知ったうえで融資先に実際に出かけるほか、災害査定にも立ち会います。現知事実習としては地方銀行でヒアリング、国有財産の現地調査といった貴重な経験もできました。

四国財務局のなかで集まった地方創生支援のための若手職員のプロジェクチームのみなさんとは、地方創生をめぐる議論の場に参加をしています。最終日には実習結果を10分で財務事務所長に対してプレゼンをしました。

参加者募集 地方創生推進士育成科目 4th phase 準正課

市長の間近で行政の仕事を学べる絶好のチャンス!

市長から、市政を学ぶ!

高知市長インターンシップ 学ぶ!

高知市役所のトップに密着同行するインターンシップを開講！
市長の公務に同行する中で、高知市の市政に対する理解を深めると同時に、市役所トップの考え方やリーダーシップなどを学べるプログラムです。

◆期 間◆ **2020年**

① 2月10日(月)～2月18日(火)頃
② 3月18日(水)～3月24日(火)

※1人約30時間を目処に実施。

◆主な内容◆ オリエンテーション、市長随行、事務作業、研修成果報告等、受講者と座談、打ち合わせした後、プログラムの内容の詳細について検討します。

◆募集人数◆ ①②の期間 各1名ずつ計2名

◆受講者の決定◆ 応募書類の提出後、面接を経て決定します。

◆応募方法◆ 応募書類に必要事項を記入の上、コラボレーション・サポート・パークへ提出してください。応募書類はコラボレーション・サポート・パークで受け取るか、ホームページより印刷してください。応募締め切りは1月14日(火)。

◆お問い合わせ◆ 高知大学コラボレーション・サポート・パーク(コラボ) 担当:木下 高知市〒980-1 目5番1号KUS(学生会館)2階
TEL:088-844-8932 FAX:088-844-8948 Mail: cobo@kochi-u.ac.jp

このインターンシップは地方創生推進士育成科目(4th preparation phase 準正課)として実施されています。この時期が実習で、地方創生推進士修了条件上の14日2単位分の修得となります。

TSI 社会福祉協議会 高知市 高知大学 高知市役所 高知市立図書館 高知市立生涯学習センター 高知市立市民センター

令和元年度 財務省四国財務局

高知財務事務所長 1week インターンシップ

【9月17～20日&24日の全5日間】

応募締切 6/20 定員 4名

＜実施の内容＞

1日目 9/17(火) オリエンテーション、財務局の組織、業務の概要等、自己紹介・挨拶等

2日目 9/18(水) 経済調査員、企業セリング、民間企業立会い業務について知る

3日目 9/19(木) 国有財産業務(管理・処分)、金融業務 (地域金融機関のモニタリング等)を知る

4日目 9/20(金) 地方創生のための各手PTの活動、融資業務、融資先実地調査、実習報告書の作成等

5日目 9/24(火) 課題発表、所長説明、国有財産業務(総括・室会)、予算執行調査、所長との懇談等 ※なお、懇談の場により内容の変更があります。

◆このインターンシップは地方創生推進士育成科目(4th preparation phase 準正課)です。◆

◆30時間の実習で、地方創生推進士修了条件上の14日2単位分の修得となります。

【お問合せ・申し込み】
コラボレーション・サポート・パーク(コラボ) 担当:木下
TEL : 088-844-8932
E-mail : cobo@kochi-u.ac.jp

TSI 社会福祉協議会 高知市 高知大学 高知市役所 高知市立図書館 高知市立生涯学習センター 高知市立市民センター

インターンシップに参加した学生は、どの学生にも共通して、「国の行政機関のイメージがガラリと変わった」と述べていました。

財務事務所では、自治体・企業・NPOなど多種多様な組織と関わる機会が多いことから、「相手を知る」ことがとても大切になってきます。今回の業務では、国の機関についての知識だけでなく、多面的に物事を捉えることで見えてくる姿があることを知り、その大切さを体感することができました。

6 高知行政監視行政相談センターインターンシップ

「高知行政監視行政相談センター所長密着1weekインターンシップ」は、総務省高知行政監視行政相談センター所長に密着同行し、所長を通じて行政監視行政相談センターの業務を体験するインターンシッププログラムです。

国の出先機関の実情に直接触れ、業務を経験し成果(体験)を上司(事務所長)に報告することで、国と地域を繋ぐ架け橋として貢献することの意義を自分事として捉えることを目的としているもので、高知行政監視行政相談センターでの日々の動きや何げない会話から、国の出先機関トップの考え方やリーダーシップなどを学べるプログラムとなっています。今回は人文社会科学部1名、農林海洋科学部2名の学生が受講しました。

センターの業務の概要や組織運営の課題などを聞きながら、学生たち自らで提案をして課題を考え、行政相談委員のみなさんや市町村のトップと話のできる場を設けていただき、国の事務所業務の一端に向き合うことができました。



インターンシップのようす

参加者募集

地方創生推進士育成科目 4th phase 準正課

総務省 高知行政監視行政相談センター

所長密着 1 Week インターンシップ

～所長から学び、そして所長に提案しよう！～

【学生さんへのメッセージ】
 総務省高知行政監視行政相談センターは、行政相談や行政評価局調査等の業務を通じて、行政の改善を推進しています。
 本インターンシップでは、所長と一緒に1週間、当センターの業務を経験していただき、地域住民の生活の安全・安心や利便の向上を図るため、行政の改善を推進すべき点は何か、あなたからのご提案を期待しています。

※ 「行政相談」は、住民から行政に対する苦情や意見を受け付け、その解決や実現の促進を図る業務です。「行政評価局調査」は、各府省の政策や業務の実施状況の評価を行い、必要な改善方策を勧告する業務です。

◆相談窓口◆
 高知大学コラボレーション・サポート・パーク (コラパ～)
 (担当: 木下)
 高知市曙町2丁目5番1号IKUS (学生会館) 2階
 TEL:088-844-8932 FAX:088-844-8948
 Mail: cobo@kochi-u.ac.jp
メールで連絡いただければ申請書をお送りします。

総務省行政相談センター
まくみ高知

【インターンシップの概要】
期 間：令和元年8月26日(月)～9月6日(金)のうち5日間 ※ ただし、8月27日(火)は必須
主な内容：①オリエンテーション、業務の説明、質疑応答
 ②行政相談事案の現地調査
 ③行政課題の発掘に関する検討会
 ④行政相談委員・市町村担当職員との会議
 ⑤市町村長訪問
定 員：2名以内
場 所：総務省高知行政監視行政相談センター
 高知地方合同庁舎2階 (高知市本町4-3-41)
U R L：www.soumu.go.jp/kanku/shikoku/kochi.html
応募締切：令和元年7月5日(金)
※応募方法はコラパ～学生会館2Fまで

※ プログラム内容の詳細は、COC+ホームページをご覧ください。

高知行政監視行政相談センター所長インターン

検索

TSI 株式会社
〒760-0001 高知市東山町1-1-1
 TEL:087-821-1111 FAX:087-821-1112

COC+ 株式会社
〒760-0001 高知市東山町1-1-1
 TEL:087-821-1111 FAX:087-821-1112

地(知)の拠点 まちひとこと館
〒760-0001 高知市東山町1-1-1
 TEL:087-821-1111 FAX:087-821-1112

⑦ UBCインターンシップ

教育プログラム「地方創生推進士育成科目」（準正課、第4フェーズ）の一つ「UBCインターンシップ」では、県内各地に常駐するUBC（高知大学地域コーディネーター：University Block Coordinator）の指導のもと、3名の学生がプログラムを受講しました。

「UBCインターンシップ」は、地域の課題解決に向けて大学・地域・自治体等の関係機関を“コーディネート”するUBCの活動を体験するインターンシッププログラムです。地域の実情に触れ、課題を認識し解決のための方策を考えることを目指しており、受講する学生は、現在UBCが向き合っている地域課題に基づいて設定されたテーマにUBCとともに取り組み、UBCの視点から実体験を通じて学びます。

受講した学生は、UBCの活動を通じて地域を体験するとともに、大学と地域をつなぐコーディネーターの役割の大きさを実感しています。

UBCインターンを希望した学生は、受講を希望した動機として、

- 地域の課題解決に向けて熱心に取り組まれているUBCの先生方の考え方や地域貢献の手段などについて深く学び、吸収したいと考えた。
- 新たな高知県の魅力を地域に密着しているUBCの活動から発見したいと考えた。
- サークル活動で関係する地域を活性化させるうえで、他の地域は観光客を集めるのにどのような取り組みをしているのか知りたい。

と述べています。

鳥獣被害やNPO、観光や地域活性化、教育や中山間といった課題意識を持って学生たちも受講を希望します。

UBCの教員は、それぞれに担当地域を分けているだけでなく、専門の得意分野がそれぞれにあって、学生の志望動機に合わせてインターン先を決定しています。

今後も、地域に定着して貢献することの意義を自分事として捉えることのできる人材の育成を目指していきます。



活動のようす

令和元年度 「地方創生推進士育成科目」第4フェーズ 準正課

UBCインターンシップ

高知大学地域コーディネーター（UBC）と同行し、地域協働を学ぼう

- 高知県産業振興推進地域本部
- 高知大学キャンパス

UBCインターンは計30分時間
1名または複数の教員に
同行します。

嶺北地域 梶 英樹 先生
仁淀川地域
高知市地域 大崎 優先生
安芸地域 赤池 眞吾 先生
高幡地域 岡村 健志 先生
幡多地域

県内7カ所の高知大学サテライトオフィスの担当教員（UBC：University Block Coordinator）と同行し、地域住民や企業・団体、行政職員等と連携して地域課題の解決を共に考える「UBCインターンシップ」の受講生を募集。利害関係者との合意形成や住民組織の構築に関わりながら、地域の抱えるさまざまな課題や取組について、地域の現状が学べるインターンシップです。

活動テーマの一例

- 赤池：地域の文化財を活かした教育体験プログラム
- 大崎：地域の課題や魅力を統計から読み解く
- 岡村：地域プロジェクトの開発とマネジメント
- 梶：地域の子どもの教育環境支援

参加者募集中
相談は随時
コラボまで受付
(学生自費以下)

<相談・申込み先>
コラボレーション・サポート・パーク 担当：木下
Mail: kobob@koch-u.ac.jp Tel: 088-844-8832

TSU

⑧ コラボ考房プロジェクト

コラボ考房プロジェクトは、自律した人材の育成をめざし構築された教育プログラムで、地方創生推進士の育成科目に準正課として位置付けられ第5フェーズに該当しています。毎年新規企画を実践に移してみようと自主的活動の企画実現をめざす学生団体を募集し、企画が採択された団体に対して1年間にわたって、プロジェクトの企画立案支援や、組織体制づくり、物品の貸し出し支援や、情報提供等、実施の支援やアドバイスなどを行っています。また年4回のブラッシュアップ会を開催し、活動の進捗状況や成果などを発表しあい、卒業団体や継続団体との交流やネットワークづくりのお手伝いもしています。県内中小企業とのネットワークづくりの一環で今年は社会人の皆さんと学生団体の相互コミュニケーションを促進する場も設け、県内企業の学生活動の支援を得る機会や活動を知ってもらい、学生も県内企業の実践的なアドバイスを受ける機会提供の場を生む役割も果たしています。

○ 支援内容

必要に応じて打ち合わせを行い、活動の進捗状況の確認や、助成金情報を提供するなどの活動支援、パネルや机、テントなどの活動に伴う必要な物品の貸し出しの他、春の新歓イベント「春芸祭」の広報活動支援や運営のサポート等を行っています。また、市町村の学生活動支援補助金など外部資金獲得のための申請時のアドバイスやサポートも行っています。

令和元年度の新規企画応募団体は前期に「#ケセラセラ」後期に「ちーむちゃりんこ☆」の2団体が応募。それぞれの活動に応じた段階に応じたアドバイスや支援や、組織運営に対する相談業務や物品の貸し出しなど年間通して実施しました。なお、平成30年度の支援活動活動団体「土佐の架け橋 ハンプロ」は引き続き令和元年度も「香美市学生地域活動支援事業費補助金」に応募し2年続けて支援団体として採択されています。

○ 学生団体の主な活動

学部や学年の枠を超えて、同じ志や思いをもった仲間と一つのテーマを共有し地域や学内の様々な活動に取り組んでいます。



「ちーむちゃりんこ☆」新規企画発表



「#ケセラセラ」活動報告



「スポーツ化組合」学内初のスポGOMI実施



高校生&社会人との意見交換WS

活動チームの新規企画募集中

何かしたい！その思いをかたちに

応募条件
・活動費が1年あたり20万円以内で、5人以上の常勤メンバーで活動可能
・活動費が1年あたり20万円以内で、5人以上の常勤メンバーで活動可能

応募方法
・活動費が1年あたり20万円以内で、5人以上の常勤メンバーで活動可能

お問い合わせ
TEL 089-844-9932

後期コラボ考房プロジェクト

活動チーム新規企画募集

何かしたい！その思いをかたちに

～サポート&アドバイスをもらながら他の活動団体とつながって楽しく実践～

お問い合わせ
TEL 089-844-9932

令和元年度 第1回

コラボ考房プロジェクト

ブラッシュアップ会

日時
2019年6月1日(土)
午前9時～12時

場所
共通教育棟3号館 335教室

第3回ブラッシュアップ会

第一日 活動発表 9:00～

第二日 グループ間交流ワークショップ 10:45～

お問い合わせ
TEL 089-844-9932

○ プロジェクト内容

| プロジェクト名 | チーム名 | 人数 |
|---|-------------------|----|
| 映像コンテンツで高知の魅力を発信する | ちーむちゃりんこ☆ | 2 |
| 高知ユニバーサルガイドプロジェクト | #ケセラセラ | 7 |
| ～旭地区の歴史・記憶・想いをつなぐ今昔写真集を作ろう～ | あさつな | 3 |
| 室戸市佐喜浜の観光場所の整備及び情報提供 | さきはま大好きクラブ(さきらぶ) | 2 |
| そうだ、狩りに出よう。 ～狩猟を通して、中山間の野生動物の共生を考える～ | 土佐の懸け橋 ハンプロ | 6 |
| 国際協力団体 | すきっぷ | 3 |
| 次世代につなげよう地域の食 | 安田(あんた)の食応援隊 | 11 |
| バリアの視点からまちを元気に!! | 地域まちづくりプロジェクトコンパス | 5 |
| えいこやあプロジェクト in 日高 | あだたん!!!! | 7 |
| LINK | LINK | 3 |
| 地域×国際×学生 | 国際茶屋 | 2 |
| スポーツ化現象計画 | スポーツ化組合 | 7 |
| 地域活動を通じて自己成長!! | 防災すけっと隊 | 11 |
| 子どもたちに川遊びの楽しさを届ける! | 四万十かっぱ組 | 4 |
| NPO法人 四国青年NGO HOPE | FACE | 1 |
| | | 74 |

令和元年度は、自主的な地域で活動をしている高知大学の学生団体が活動発表と交流を行うため、年4回ブラッシュアップ会を実施し、15団体より74名(のべ109名)の学生たちが参加しました。

今年度前期に、ユニバーサルの視点で高知の魅力を案内するガイドツアーを企画・実施したいと「#ケセラセラ」が誕生、また、後期には、県内の地域の魅力、知られざる人やモノや組織や企業などのPR動画(映像コンテンツ)を作成しSNSで発信することで、若者の視点で動画作成の得意な自分たちが広報を担い、また、地域の賑わいづくり・情報発信の一翼も担おうと「ちーむちゃりんこ☆」が新規企画団体として応募し採択されました。2団体とも令和元年度の新規支援活動団体として、他団体との交流やネットワークづくりに積極的で、先生方や社会人ゲストからのアドバイスやサポートを受けながら、それぞれに活動を進展させています。

昨年度採択され引き続き活動を継続している「あさつな」は、高知市旭地区の変わりゆくこの50年間の地域の歴史や人々の暮らし、文化を、写真をとおして次世代に継承していこうと令和元年度も引き続き活動を継続しています。1年の区切りとなる1月には、ソーレ祭りで展示発表会を行いました。

継続活動団体は、東は室戸市佐喜浜地区、西は四万十町など幅広く県内各地で、国際交流、福祉、鳥獣被害対策、防災、環境、地域活性の取り組み、地域資源の掘り起こし、フェアトレードといった各テーマを軸として、地域の人や組織と一緒に協働しながら、啓発活動や魅力の情報発信等、多彩な分野で多岐に及ぶ活動を行っています。

○ 実施スケジュール

- 4月 コラパ～春迎祭の開催
- 5月 学生団体の募集開始(前期)
- 6月 1日(土) 第1回ブラッシュアップ会の開催
- 9月 27日(金) 第2回ブラッシュアップ会の開催
- 10月 学生団体の募集開始(後期)
- 12月 21日(土) 第3回ブラッシュアップ会の開催
- 2月 15日(土) 第4回ブラッシュアップ会の開催

3 雇用創出

① 食品産業人材育成事業

高知大学が地域の食品産業における中核人材育成事業として実施している「土佐フードビジネスクリエーター人材創出(土佐FBC)」において、雇用創出のための更なる拡充策として、国家認証制度である「食の6次産業化プロデューサー(通称:食Pro)」及び企業の海外販路開拓支援として「土佐FBCグローバルプログラム」に取り組んでいます。

食Proにおいては、BBコース(121時間の履修)でレベル1~3までの取得が可能となるプログラムを構築し実施しました。令和元年度は、27名がBBコースを受講し、そのうち24名が有資格者として修了を予定しています。

「土佐FBCグローバルプログラム」は、土佐FBC修了生所属企業及び学生を対象にした、食品における海外ビジネスを外国で実際に体験する研修プログラムです。今年度は、ミタニホールディングス(株)と尾崎彰則氏(個人)、高知大学の学生3名が参加しました。

研修成果として、ミタニホールディングス(株)は現地スウィーツ店から提案商品の見積もり依頼があり、尾崎彰則氏は香港高知県人会主催のパーティーで土佐ジローの卵を使った料理が提供されるなど、現地で効果的な販促PR活動ができました。また、学生は現地スウィーツ店向けの新メニューの企画案をネット会議でプレゼンし、高評価を得るなど、実践的な知識・体験を習得することができました。



～学生3名が香港のスウィーツ店に提案した新メニュー企画案～

本プログラムが海外に対応できるグローバルな人材の育成の一助となり、また、JETRO高知の専門家や土佐FBC教員とともに市場調査・個別営業を行ったことで、海外販路開拓についてのノウハウが得られ、今後の海外事業展開の端緒となることを期待します。

第1回事前研修 テーマ:市場環境分析による販売ターゲットの設定

【日時】2019年7月26日(金) 15:00~18:00

【場所】高知大学次世代地域創造センター2階セミナー室

事前研修では、先にJETRO高知の川名所長から香港の経済概況について説明があり、その後、高知大学土佐FBCの松田講師から商品分析のためのワークが行われました。それらを踏まえ、最後は全員でディスカッションを行い、海外研修での視察先の選定が行われました。

海外研修①(香港) テーマ:香港市場調査による販売ターゲットの検証

【日時】2019年8月18日(日)~8月21日(水)(3泊4日)

【場所】香港

【参加者】参加企業(2名)、土佐FBC、JETRO高知、学生(代表者1名)

香港での研修は、主に日本の食材を使っている飲食店・スイーツ店と、現地小売店の市場ニーズを調査しました。まず、JETRO 香港を訪問し、香港の食品販売の現状について説明を受けた後に、日本料理店を訪問し、土佐ジローの卵を提案したところ、香港の人は卵を生で食べない慣習があり店舗で卵かけご飯の提供は難しいことが分かりました。その代わりに、香港の高級すき焼き店や焼き鳥店では生卵の需要があるなどのアドバイスを受けました。

また、スイーツ店にミタニホールディングス(株)の新品「わらび餅」を提案したところ、味の面で高い評価を受け、見積もり依頼を受けました。

小売店へのヒアリングに関しては、現状は競争が激しく、今後はネット販売に可能性があるなどの助言を受け、実際にネット販売を行っている会社を紹介していただき、その会社から説明を受けました。



JETRO 香港にて



現地商社との打ち合わせ



地元高級スーパーの視察

● 海外研修プログラム

1日目：移動（高知～香港）

2日目：JETRO 香港ブリーフィング、現地小売店・飲食店視察及び面談

日本料理店「塚田農場」香港店（食事兼ヒアリング）、JETRO 香港訪問（ブリーフィング）、日本調理店「玄穂（GENSUI）」（料理長と面談）、「i CREMERIA」運営会社訪問（社長と面談）

3日目：視察及び現地商社との打ち合わせ

JC Food Republic Company Limited（社長と面談）、地元スーパー・ドラッグストア視察、5019 PREMIUM FACTORY JAPAN（社長と面談）

4日目：移動（香港～高知）

第2回事前研修（中間報告会） テーマ：香港市場調査を踏まえての販売戦略の設定

【日時】 2019年9月13日（金） 15：00～18：00

【場所】 高知大学次世代地域創造センター2階セミナー室

8月に行われた海外研修の報告がありました。参加企業であるミタニホールディングス(株)からは、今回の検証で、香港市場の概況からみた可能性と現地で得た感触に差異はあったものの、ジャパンブランドの信頼性、販売価格帯や商材、販路等の検証から得た情報は、今後活かすべき大きな成果となった、と報告がされました。続いて参加企業商品の販売戦略を考えるワークや、香港スイーツ店向けの輸出事例紹介があり、最後にそれらを踏まえた商品及びメニュー企画のワークが行われ、学生には新しいスイーツを提案するよう課題が出されました。

海外研修②（国内代替プログラム） テーマ：テレビ会議方式による商品提案

【日時】 2019年9月25日（水） 13：00～16：00

【場所】 高知大学次世代地域創造センター2階セミナー室

前回の研修で、新スイーツの提案が学生それぞれの課題として与えられており、今回はその報告が行われました。

香港で人気を集める高級デザート店とテレビ会議を通じて、それぞれ学生が考案した新スイーツの報告とその講評が行われました。また、その後は、JETRO 香港ともテレビ会議を行い、現地の方の趣味嗜好、食文化について意見をいただきました。



香港スイーツ店とのテレビ会議



学生からの新スイーツの提案

研修報告会 テーマ：海外販路開拓戦略の見直しと今後の提案商品

【日時】 2019年11月22日（金） 16：30～18：00

【場所】 高知大学次世代地域創造センター2階セミナー室

報告会では、参加企業における報告及び参加学生からの香港向けスイーツ企画のブラッシュアップが行われました。

参加企業からは、日本での流行をそのまま持つていくのではなく、現地ニーズを意識した対輸出用製品の開発、現地商社や企業、店舗とのマッチング等、今後の海外でのマーケティング戦略が報告されました。

最後の講評では、スイーツ企画のブラッシュアップに対して、見た目やターゲット、コンセプトはもちろん原価率や輸送費等よりリアルな感覚を取り入れたプレゼンが参加学生全体として高評価を受けました。



参加企業からの報告

2 観光人材育成事業

雇用創出プログラムのひとつである、観光人材育成事業では平成28年度に発足した「観光人材育成事業検討会」で必要とされる人材像と教育カリキュラムの検討を行い、平成29年度から「こうち観光カレッジ」として実施し、3期目を迎えています。

こうち観光カレッジは、地域づくり、組織づくりの観点に特化した中核的な観光人材を育成するプログラムです。県内はもとより日本国内の観光に関するエキスパートを講師として迎え、観光マネジメントをはじめにフィールドスタディまで幅広く学べるようにしました。

「マーケティング力・マネジメント力・実践力」「ファシリテーション力・チーム形成力」「情報収集分析力・企画力」「発信力・プレゼンテーション能力」を高めることを狙っています。

令和元年10月30日の基調講演「高知が選ばれ続けるために必要なこと～先進地域の経営に学ぶ～」では、観光カリスマの山田桂一郎氏の講演に対し、高知県立大学の観光に関心をもつ学生や一般のみなさんや自治体職員、観光関係者を含め約100名の参加者が、魅力的な観光地をつくるためには、そこに住む人々が地域を良くするために自分たちで動くことが必要だといったことを学びました。

こうち観光カレッジの受講生11名は、

- | | |
|--------------------------|--------------------------------|
| 観光マーケティングを学び、スキル向上に役立てたい | 移住に呼び込む魅力的な観光ツアーを企画実行したい |
| 高知の観光人材として学びを深めたい | 地域おこし協力隊として観光のノウハウ習得や人脈づくりをしたい |
| 観光の企画・運営を担う人材として成長をしたい | 高知の観光素材をみがき、盛り上げる企画を考えたい |
| インバウンド方向のビジネスを目指す仲間を作りたい | 若年層を受け入れる観光ビジネスを企画したい |
| 観光と農業をつなぐ仕事をこれからしていきたい | 山間部で周囲を巻き込みながら観光分野をより良くしたい |
| デザインを切り口に高知の観光を変えたい | |

といったような受講動機のもと、11月から1月にかけての週末に行われた講義を熱心に受けました。

なかには、こうち観光カレッジ修了生ネットワークのみなさんによる、観光企画ブラッシュアップやケースメソッドといった双方向の講義もありました。

各地からいらした講師の方々からは、受講生が自ら活発に質問をして、グループワークを率先して進めていることに高い評価をいただきました。

その結果、8名が修了認定を受け、1名の受講生が「観光プロジェクト企画実習」(インターン)の学びとして、株式会社四万十ドラマで2月下旬にお世話になりました。

今後のそれぞれの修了生の活躍と、1期生・2期生と誘い合わせて観光企画が生まれ、学び合う場ができていくことに続く修了生ネットワークの発展が期待されます。

高知が選ばれ続けるために必要なこと

こうち観光カレッジ開講式基調講演

10月30日水

時間: 13:30~14:30
会場: 高知大学朝倉キャンパスメディアの森6F

講師: 山田桂一郎氏

「先進地域の経営に学ぶ」

こうち観光カレッジ受講生 募集中!

受講無料 応募締切 10月11日(金)

こうち観光カレッジ受講生 募集中!

こうち観光カレッジとは?

1. マーケティング力・マネジメント力・実践力
2. ファシリテーション力・チーム形成力
3. 情報収集分析力・企画力
4. 発信力・プレゼンテーション能力

受講から修了まで

カリキュラム

高知大学

○履修カリキュラム一覧 (全60時間)

| 日程 | 時間 | 講義 | 講師 |
|------------------------|-------------|----------------------------|---|
| 10月30日(水) | 13:30~14:30 | 基調講演 | JTIC.SWISS代表 山田 桂一郎 |
| | 14:30~15:00 | 開講式 | |
| | 15:00~17:00 | ディスカッション | JTIC.SWISS代表 山田 桂一郎 高知大学 理事 受田 浩之 |
| 11月 9日(土) 11月10日(日) | | 観光地域づくり現場実習 (宿泊あり、実費負担) | 徳島県つるぎ町、西阿波地区 |
| 11月16日(土) | 9:00~12:00 | インバウンド | 日本航空(株) 高知支店長 磯村 康志 |
| | 13:00~16:00 | ファシリテーション・ リーダーシップ | 高知大学地域協働学部 講師 須藤 順 |
| 11月17日(日) | 9:00~12:00 | ネット活用戦略 | 株式会社ビーチュー 代表 雨宮 伊織 |
| 11月23日(土) | 9:00~16:00 | 観光企画ブラッシュアップ | こうち観光カレッジ修了生ネットワーク |
| 11月30日(土) | 9:00~15:00 | 地域学 | 高知大学次世代地域創造センター 講師 大崎 優 |
| 12月 7日(土) | 1日 (5H) | 観光地域づくり現場実習 (日帰り、実費負担) | 村の駅ひだか |
| 12月14日(土) | 9:00~12:00 | 観光地域づくり体制構築 DMO/DMC | 株式会社ものべみらい 代表取締役社長 古川 陽一郎 専務執行役員 北本 大輔 |
| 12月21日(土) | 9:00~12:00 | 観光地域デザイン | 株式会社四万十ドラマ 代表取締役 畦地 履正 |
| 1月25日(土) | 9:00~12:00 | ケースメソッド | こうち観光カレッジ修了生ネットワーク |
| | 13:00~16:00 | 観光地域ブランディング | 北陸先端科学技術大学院大学 教授 敷田 麻実 |
| 1月26日(日) | 9:00~16:00 | ケースメソッド | こうち観光カレッジ修了生ネットワーク |



基調講演で熱弁をふるう山田桂一郎氏



11月9日 世界農業遺産の取り組みを知る



観光企画ブラッシュアップ

○ こうち観光カレッジ 現場実習 (世界農業遺産とインバウンド受入先進地から学ぶ)

| 日程 | 時間 | 内容 | 備考 |
|----------|------------------|--|----------------|
| 11/9(土) | 8:00 | ①高知大学次世代地域創造センター 発 | マイクロバス利用 |
| | 10:00着 11:40発 | ②つるぎ町役場 概要説明 (世界農業遺産の取り組み) | 同行者：つるぎ町 |
| | 12:30着 14:20発 | ③美馬市瀧名集落 ● 住民主体での農家レストランの開業(昼食) ● 修学旅行の受入、交流人口拡大への取り組み ● 6次産業化(農家民宿、干し芋、お茶)への取り組み | |
| | 15:10着 15:40発 | ④猿飼集落展望台 ● 急傾斜を活かした観光農園の取り組み | |
| | 16:00着 | ⑤つるぎ町剪字集落 「にし阿波の傾斜地農耕システム」の説明、畑に入り農業の方法、農機具、茅場、石垣などを説明 ~17:25 | |
| | 17:40 | ⑥つるぎの宿岩戸 ディスカッション・夕食 | |
| | 21:00 | ⑦つるぎの宿岩戸(宿泊) | |
| 11/10(日) | 8:00 | ①つるぎの宿 発 | |
| | 10:40着 11:10発 | ②落合集落 ● ローカルガイド | 同行者：一般社団法人そらの郷 |
| | 11:40着 12:25発 | ③祖谷のかずら橋周辺インバウンド見学 ● 今久保集落 ● ゲストハウス(井上琢斗氏「AWA-RE」) | |
| | 12:40着 14:00発 | ④歩危マート ● ハニカム体験と昼食 | |
| | 14:10着 | ⑤道の駅大歩危 ● 観光圏の取り組み説明と意見交換 ~16:10 | |
| | 17:30 | ⑥高知大学着 | |



開講式集合写真



西阿波の宿でディスカッション



12月7日 日高村で現場実習

③ 起業支援事業

2016年度末に設置した起業部は、2019年度は5名の部員により活動した。1、2か月に1回のペースで全体ミーティングを開催し、各部員の活動に対するメンターを交えた意見交換を行った。2019年度の全体ミーティングは計7回となる(6/23, 7/20, 8/4, 9/1, 11/3, 11/23, 3/21)。

また、起業部員2名がペアになり、12月15日に開催された以下のコンテストにて「高校卒業以上の学生部門」で優秀賞を受賞した。

●「高知家地方創生アイデアコンテスト2019」

高知県主催による県内在住の学生を対象とした地域経済分析システム (RESAS) を活用した高知を元気にするアイデアコンテスト。応募43作品。最優秀賞1作品、優秀賞2作品(「高校生部門」および「高校卒業以上の学生部門」)。



全体ミーティング風景



高知家地方創生アイデアコンテスト2019 優秀賞受賞

2018年度末に卒業した起業部員のうち1名は、高知県内のタウン誌制作・観光企画系の企業に就職している。また、地方創生推進士の第1号で現在は県内企業で働いている卒業生が11月からメンターとして加わり、自らの学生時代の活動の経験に基づくメンタリングを行うなど、地域志向マインドの循環も起きつつある。

これまで3年間の活動で部員は計13名、うち3名が卒業した。名称に掲げる起業は実現していないが、活動方針は「アントレプレナーの育成」ではなく「アントレプレナーシップの育成」であることから、卒業生が就職先での新たな社内創業や実生活における社会活動等、僅かでも社会に変化をもたらす活動を生み出すことを期待している。

2020年度以降も部員の希望がある限り活動を継続する予定である。近隣の香川大学でも起業部が12月に設立されており、同じく学生に起業を通じた学びを与えることが意識されている。県域を越えた交流を図ることで、更なる部員の意識向上につながることを期待される。

全国ネットワーク化事業 令和元年度COC+全国シンポジウム

高知大学は、2月27(木)～28日(金)、全国ネットワーク化事業 令和元年度COC+全国シンポジウム「関係人口から考える持続可能な地域社会」と題し、開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の防止という観点から、全国シンポジウム及びコーディネーター会議の中止を決定いたしました。参加を申し込みいただいた270名の皆様には、このような決断となり大変申し訳ございませんでした。

全国ネットワーク化事業 令和元年度COC+全国シンポジウム

関係人口から考える持続可能な地域社会

2020年
2月27日(木) 13:30～17:45
会場：三翠園ホテル「富士の間」 TEL:088-822-0181

14:15 基調講演
「関係人口のつくり方～わたしたちは地方で幸せを見つける～」

15:30 基調講演
「高知大学流 関係人口のススメ」

16:00 パネルディスカッション
「関係人口から考える持続可能な地域社会」

2月28日(金) 9:00～11:00
会場：三翠園ホテル「桜の間」 TEL:088-822-0181

【事例発表会】

参加無料
(税込価格)
2月12日(金)
定員：250名

高知大学
Kochi University

全国ネットワーク化事業 令和元年度COC+全国シンポジウム

関係人口から考える持続可能な地域社会

2020年
2月27日(木) 13:30～17:45
会場：三翠園ホテル「富士の間」 TEL:088-822-0181

14:15 基調講演
「関係人口のつくり方～わたしたちは地方で幸せを見つける～」

15:30 基調講演
「高知大学流 関係人口のススメ」

16:00 パネルディスカッション
「関係人口から考える持続可能な地域社会」

2月28日(金) 9:00～11:00
会場：三翠園ホテル「桜の間」 TEL:088-822-0181

【事例発表会】

参加無料
(税込価格)
2月12日(金)
定員：250名

高知大学
Kochi University

事業活動報告

第4回全国COC+推進コーディネーター会議

2月27日～28日に開催を予定しておりました「全国ネットワーク化事業 令和元年度COC+全国シンポジウム」に合わせて開催を予定しておりましたが、全国COC+推進コーディネーター会議は、新型コロナウイルスの感染拡大の防止という観点から、全国シンポジウム及びコーディネーター会議の中止を決定いたしました。開催を心待ちにしてくださった参加者の皆様には、このような決断となり大変申し訳ございませんでした。

1 高知県立大学

1. 県内企業人との交流会

令和元年度は県内企業との交流会事業として、県内企業や団体のご協力のもと、本学学生と県内企業とが出会う場を複数回、設定することができた。

本学では、具体的に以下の2事業を継続し、事業を展開した。これらの事業については、内容をより学生ニーズに沿うものとして工夫していきながら、来年度以降も継続したいと考えている。

また、事業実施の結果としては、435名の学生が45の企業・団体等（数はいずれも延べ数）との交流を図ることができ、学生へ県内企業のPRポイントを把握してもらうなど、県内就職に向けた意識の定着を図ることにつながったと考えている。

● 学部別ガイダンス

高知県内で活躍する本学卒業生を中心とした企業人を定期的に大学へ招き、高知県で働くことの魅力や仕事のやりがいを学ぶことを目的として実施。学生にとって、県内就職の視点に加えて、就職後のキャリア形成についても理解を深める機会となった。

● 合同業界研究セミナー

高知工科大学との共催により、高知県に拠点を置く企業・団体を大学に招き、合同業界研究セミナーを実施。実施日当日は、学生と企業人との新たな出会いが数多く創出され、業種・仕事への理解を深めながら進路選択を具体化していくための貴重な機会となった。

○ ガイダンス等一覧表（年間） 2019年度（令和元年度）

| 月 | 事業名 |
|-----|----------------------------|
| 4月 | 学部別ガイダンス（専門職対象） |
| 5月 | 学部別ガイダンス（専門職対象） |
| 6月 | 学部別ガイダンス（専門職対象） |
| 11月 | 学部別ガイダンス（専門職対象） |
| 12月 | 合同業界研究セミナー、学部別ガイダンス（専門職対象） |
| 1月 | 学部別ガイダンス（専門職対象） |

2. 中山間インターンシップ

県内の中山間地域の現状と抱えている課題を知り、体験をとおして中山間地域で働くことの魅力とやりがいを感じる機会とすることを目的に、各市町村及び教育委員会と連携し、下記のとおり実施した。児童・生徒への学習支援はもちろん、学校行事の準備や事務業務等をおとして教師としての仕事への理解を深めることができたとともに、宿泊を伴うインターンシップでは、地域の暮らしを体験しながら活動を進めることにより、地域と学校や行政が一体となって教育に取り組む意義を知る機会となった。

| 概要 | 実施場所 | 実施期間 | 参加学生数 (延べ) |
|-----------------|-------------|--|---------------|
| 小・中学校での学習支援(夏季) | 津野町 (宿泊) | 8月26日～9月 6日 | 16名 |
| | 安芸市 | 9月 2日～9月13日 | 4名 |
| | 三原村 (宿泊) | 8月26日～8月30日 | 5名 |
| 小・中学校での学習支援(春季) | 安芸市 | 2月19日～2月28日 | 3名 |
| | 津野町 (宿泊) | 前期 2月25日～2月28日 後期 3月 2日～3月 6日(中止) | 3名 |



2 高知工科大学

【海外インターンシップ】

平成31年度の海外インターンシップでは応募学生を書類・面接により厳選し、3名の学生をタイ1社、マレーシア1社、シンガポール1社の受入先へ派遣することとした。ただし、タイへの実習生については、現地で起こった昨夏の連続爆発事件により渡航を見送り、予定を再調整した今春も新型コロナウイルス感染拡大により中止を余儀なくされた。

昨年度(平成30年度)より、本学が海外に学生を派遣する他の語学・文化研修等との差別化を図る目的で、選考において本人の専門性や実習への意欲、目的意識を明確に問うようにしたことから、当該インターンシップの応募者は大幅に減少した。その結果、受入表明のあった県内企業1社への応募者は居なかった。

ただ、当該インターンシップ募集のための説明会および派遣学生による成果報告会には合わせて40名程度の学生が参加しており、グローバルに事業展開する県内企業を認識する機会として機能した。

【マネジメントチャレンジ】

今年度(平成31年度)の地域共生概論2(マネジメントチャレンジ:以下「マネチャレ」)は、高知県の安芸市、梶原町の2箇所をフィールドとして活動を行った。参加者は、学生が7名であった。講義は、第1講の関係づくり合宿(9/22-23)から始まり、第2講:企画書づくりを学ぶ(10/10)、第3講:計画づくりを学ぶ(10/24)、第4講:プロジェクトマネジメントを学ぶ(11/14)、第5講:チームマネジメントを学ぶ(11/28)の講義を受けながら、現地訪問・調査を行い、企画を策定・実施し、第6講の振り返り合宿&成果報告会(2/1-2)で総括を行った。

安芸市のフィールドは「まる弥カフェ」であり、梶原町のフィールドは「NPO法人 ゆすはら西 ゆすはらジビエの里」である。前者は、NHK大河ドラマ「龍馬伝」を契機に設立され、岩崎弥太郎の生家前に立地している。ビジネスの柱はカフェとオンラインショップである。カフェ・オンラインショップとも、県内外の方に高知の食を楽しんでもらうため、地元の旬の食材を使いながら日々新しいメニューづくり・商品開発に取り組んでいる。後者は、「シカ被害対策及びジビエ活用推進協定」を締結した梶原町、四万十森林管理署、猟友会と連携し、シカなどの捕獲情報を共有するなどジビエ利活用を推進している。ジビエを重要な地域資源と位置づけて町の地域活性化に貢献することで「ジビエグルメ」のまちづくりを目指している。このジビエは、「絶品」として、特に県外で高く評価されている。

このような状況の中で、安芸チームは、予備調査において、高知市内の大学生の多くが休日に安芸・室戸方面に足をのぼすことを明らかにした上で、大学生へのまる弥カフェの知名度向上を図るために、商品・店舗をInstagramで紹介し、100人のフォロワー創出を目標とするプロジェクトに取り組んだ。また、2020年1月19日には梶原チームと共同で、サニーマート御座店において、まる弥カフェ・ゆすはらジビエの出店を行った。残念ながら、100人の目標には届かなかったが、フォロワー外の方からの投稿、現フォロワーからのコメント、並びに、ストーリーでの拡散等、Instagramによる紹介プロジェクトの効果は徐々に現れている。

梶原チームは、県内在住の方を対象に、インターネットを通して、ジビエの嗜好調査を行った。県鳥獣対策課の宇賀様に事前に確認したところ、県内における嗜好調査は前例が無いとのことであった。また、前述したように、サニーマート御座店において、安芸チームと共同出店を行った。その際、購入者・来場者の方々にもジビエ普及に関するアンケート調査を実施した。嗜好調査を実施する前、メンバーは、「多くの県民はジビエに対して「固い、臭い、高い」等の負のイメージを抱いているのでは」との「仮説」を立てていた。しかし、調査の結果、男性は肉そのもの、女性はソーセージ・ハム等の加工品への関心を有している方が多いという「仮説が棄却される」結果が得られた。1月19日の出店では、ジビエ関連食品は真っ先に完売した。このことは、「上記仮説の棄却」と無関係ではないようにも思われた。ジビエ普及に関する店頭調査では、ジビエのレシピ会を開催して欲しいとの声が多数寄せられた。

今回の二つのプロジェクトを実施した結果、まる弥カフェ代表の小松恵子様から、「栲原ジビエを楽しむ会」と題する料理教室を高知市内で是非開催したいのご提案を頂いた。「栲原ジビエを使った家庭料理を恵子さんと一緒に作ろう!」というイベントである。過去には、学生が実施したマネチャレプロジェクトを地元の方が翌年引き続いた例(大豊町)、マネチャレがご縁となって、その後の地域イベントに呼んで頂いたり(大川村)、地元の方との関係が継続している例(仁淀川町)、マネチャレの企画が継続している例(窪川町)等があった。今回は、複数のマネチャレプロジェクトを統合するご提案であり、これはマネチャレ初の「快挙」である。学生の活動を温かく見守り、このような意欲的・創造的なご提案を頂いたことに、心から感謝申し上げる次第である。

今年度(平成31年度)も、佐々倉玲於氏には全ての講義に出てご講義を頂くと同時に、プロジェクトの顧客とマネチャレチームとの良好な関係の構築・維持、各プロジェクトの進捗状況の適切な管理を行って頂いた。川中大輔氏には、振り返り合宿にご出席頂き、「振り返り=批判的省察」との見解に基づき、有意義なご講義・ワークの指導を頂いた。両チームの活動も、「顧客」である地域の住民から高い評価を頂いた。今年度のマネチャレもとても充実した講義となった。

今年度(平成31年度)のマネチャレにおいても、受講生から「プロジェクトマネジメントの重要性を実感した」との感想が数多く聞かれた。主催者(渡邊)として、今回のマネチャレを通して、

- 1.メンバーの自律的動機付けを高めるプロジェクトマネジメントの実施が重要であること。
- 2.自己決定理論によると、動機付けは、自律性の程度によって、
 - 無動機付け
 - 外発的動機付け(外的、取り入れ的、同一化的、統合的)
 - 内発的動機付け、
 に分類される。ここで、同一化的・統合的な外発的動機付けと内発的動機付けの三つが自律的動機付けと呼ばれる。マネチャレ参加者の多くは、「同一化的:マネチャレは将来役に立つ」との動機付けを持って参加している。これを、「統合的:お役に立ちたい!」、或いは「内発的動機付け:このプロジェクト面白い!」と自律性程度を高めていくことが、プロジェクトの成功要因の一つになる。
- 3.自律的動機付けを高めていくためには、自分自身の「軸」を、仮説の構築 → 検証 → (再)構築 → ……という能動的作業を通して、自ら増やしていくことが肝要である、との知見を得た。

延び延びになっていた「マネチャレガイドブック(仮称)」であるが、2020年夏頃までに発刊する予定である。

今回の企画が、地域社会を元気にする契機となることを心から願う次第です。

マネチャレの実施に際して、これまで温かいご支援を賜りました皆様、心からお礼申し上げます。

ありがとうございました。



参加大学活動状況

【地域と学生とのマッチング活動について】

平成31年・令和元年度も、香美市、香南市及び高知市の学校活動をサポートするために、地域の各学校と学生サポーターのマッチングを引き続き行った。今年度は14校に延べ48名を派遣し活動を行った。

各学校で学生が行ったサポート活動は、昨年度と同様、1) 課外の時間に学力を付けるための加力活動(高知県教委ではこのように命名しているが、小学校から高校まで教科と範囲はかなり多様である)、2) 授業の補助活動(実験や、授業準備等の補助および授業運営の補助など)、3) クラブや部活指導の補助活動、4) ネットワークや、ITによる教授活動の補助等々、多岐にわたる。今年度は、昨年度に続けて4項目目の活動に力を入れ、高知工科大学、香美市および高知県立山田高校とコラボし、プログラミング活動を香美市内の小中学校に行ったが、それとともに一昨年と同様にその他の3項目とのバランスを図りつつ、実施した。また、高知県立丸の内高校へ数学の指導で力を入れてきたが、3年目の今年は派遣学生も一年を通じて3名送れ、参加する高校生の人数も増えて活動が定着してきた。

サポート活動時間も、学校側が必要とする時間と学生の空き時間をマッチングするプログラムによって行い、今年度もこれまで同様スムーズに行えた。学校からの評価はかなり好評で、特に昨年度同様に、プログラミング教育は毎年改良しつつ、新しいドローンや子ども用のロボットなどで対応してきたので、次年度以降もさらなる要求に応えられるように改善しつつ対応していきたい。

高知県および各市の教育委員会が学校をサポートする学生を求める数は、年々増加しており、また必要な活動に交通費や一定の人件費を充てて対応する事例も増加している。高知工科大学ではこれまでボランティア、つまり無償で行う活動として位置づけてきたことから、近年公的な機関から予算が付いて、これらの諸活動に一定報酬を伴う事例と無償のボランティア事例が混在するようになってきた。今年もこの傾向が一層進んでいる。

昨年同様、まずボランティアで一定の経験知を有した学生、あるいは対象学校が遠距離で一定の交通費や負担を伴う場合に、有償の活動をマッチングするように努めてきた。次年度は、是非ともこの点を一層改善し、さらに学校現場や、地域の要望に応えられるように努めたい。

今年4月より小学校にプログラミング教育導入が求められていることから、学校現場よりこの課題についての問い合わせが昨年度にも増して多くなっている。この点も、次年度以降さらに強化したい。

3 高知工業高等専門学校

① 県内企業研究会、県内企業見学バスツアー、進路研究セミナー、mini交流会

令和元年度の活動として、本校のキャリア支援室及び地域連携センターが中心となり、(一社)高知県工業会と連携し、以下の4つの活動を実施しました。

11月19日(火)に高知県の企業による高知高専生のための「県内企業研究会」を第1体育館で開催しました。この研究会は、キャリア支援の一環として高知県工業会・高知高専キャリア支援室・高知高専地域連携協力が協力して開催したもので、1~4年生、専攻科1年生が、機械・情報・製紙・化学・建設・建築系など県内企業44社による各企業の事業内容や特徴などの説明に耳を傾けました。

参加企業は「県内企業をもっとアピールし、地元企業の強みを良く知ってもらいたい」と意気込み、学生達は各社のブースを順次訪問して、企業の業務内容について熱心に質問を行い、広く企業の情報を得ることができました。



12月16日(月)に「県内企業見学バスツアー」として、1年生(166名)が4グループに分かれ県内企業を2社ずつ(計8企業)訪問しました。キャリア教育授業の中で訪問した各企業の内容を報告し合い、県内企業の魅力について理解を深めました。また、2年生(163名)が高知県・(公財)高知県産業振興センター主催で11月7日(木)~9日(土)に開催された「ものづくり総合技術展」の見学(11月7日(木))を行いました。これらにより、学生が低学年次から地域と出会う機会が広がり、県内企業従事者や本校の先輩と交流を図ることで県内企業に対する知識や理解を深めるとともに、3年生からのコース選択と将来の仕事の関連を考える機会となりました。



12月7日(土)に「高知高専生のための進路研究セミナー」を開催し、企業150社(県内企業23社)に参加いただきました。就職活動を控えた専攻科1年生、本科4年生を中心に多数の学生が参加し、働きたい仕事や興味がある業界について、学生自ら企業に直接説明を聞くことでその企業に対する理解を深めることができました。



1月22日(水)、23日(木)に、1年生のキャリア教育授業の中で、「地域企業とのmini交流会」と題し、1クラス2社、合計8社の方々を講師としてお招きし、交流授業を行いました。本校OBの若手社員の方々にも参加いただき、地域企業の魅力を知るとともに、働くために備えておきたい知識・スキルなど、将来を考えるうえで知りたいことについて、直接お話を伺い理解を深める機会となりました。

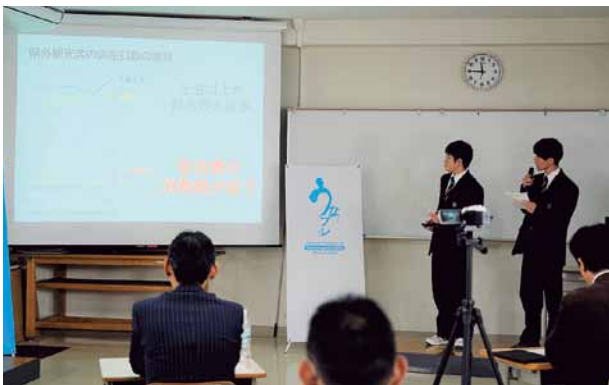


② 「高知高専うなづくプレゼンテーション(うなプレ)」を本校にて開催

11月9日(土)にうなづくプレゼンテーション(うなプレ)を開催しました。「うなプレ」とは、学生ならではの自由な発想と高専で学ぶ専門性(工学分野)とを合わせながら、高知県が抱える問題の解決アイデアをプレゼンテーションする高知高専主催のコンテストです。

今年はテーマを「観光×エンジニアリング」とし、高知県が抱える課題を“観光”を軸に解決する方法を提示し、それに伴う人手不足等の諸問題を“エンジニアリング”でカバーするアイデアを競いました。事前の一次審査(書類審査)を通過した1・2年生の5チームが本選にてプレゼンテーションを行いました。

回を重ねる毎に多くの方々にご観覧いただけるようになりました。学外からお越しいただく各審査員からは高評価をいただき、「アイデアを実現化したものを見てみたい」、「ぜひ高学年の発表も聞いてみたい」という要望をいただきました。今回のうなプレでのやりとりを介して、アイデアをブラッシュアップさせるヒントを得たようでした。



1 外部評価

事業のPDCAサイクルを効果的に実施するために設置された、外部評価委員会が令和元年7月9日（火）に開催されました。外部評価委員会は県内外の有識者4名で構成され、今回は平成30年度事業実績についての評価が行われました。評価方法は平成30年度の活動や評価項目（評価フレーム）を自己点検評価書として作成し、この自己点検評価書に基づき行われるとともに既存の評価項目（評価フレーム）についての意見等もいただく形で進められ、以下の講評をいただきました。

● 眞鍋委員長からの全体講評

① 地方創生推進士について

68名の実績があり素晴らしい取り組みである。

今後推進していくためには、「地方創生推進士」のブランド作りやメリット、ロールモデル等情報収集しながら学生にPRすることや参加大学への周知・連携を図りながら「地方創生推進士」の育成を進めること。全国の地域の大学において地域の活性化を担う人材育成にも貢献できるように他県の推進士資格認定者とのネットワーク化を図る。

② 産業界との連携強化について

学生空間「One step」の一層の進化、社員のキャリア形成、R&Dや新しいビジネス創出に大学として貢献する。

③ 大学の広報、PRについて

入試広報のデータを含め、高校生や保護者に周知し、高知大学自体の社会へのPRを行えば地域貢献型大学としてのレベルアップに繋がるのではないか。



● まち・ひと・しごと創生 高知イノベーションシステム外部評価委員会名簿

平成31年4月1日現在

| 機関名 | 役職 | 氏名 |
|------------------|-----------|--------|
| 北九州市立大学 | 地域創生学群 教授 | 眞鍋 和博 |
| 株式会社クオリティ・オブ・ライフ | 代表取締役 | 原 正紀 |
| 高知労働局 | 職業安定部長 | 田端 亜貴子 |
| 高知商工会議所 | 専務理事 | 杉本 雅敏 |

2 現地視察

事業の進捗状況や成果の把握・確認等を行うため、地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)フォローアップに係る現地視察が令和元年11月19日(火)に実施されました。現地視察はフォローアップ担当委員3名及び日本学術振興会事務局随行者2名により、中間評価時に付された留意事項及びフォローアップ報告への対応状況や、達成目標と事業内容に係る進捗状況の確認等の観点から概ね半日程度、フォローアップスケジュールを基に行われました。

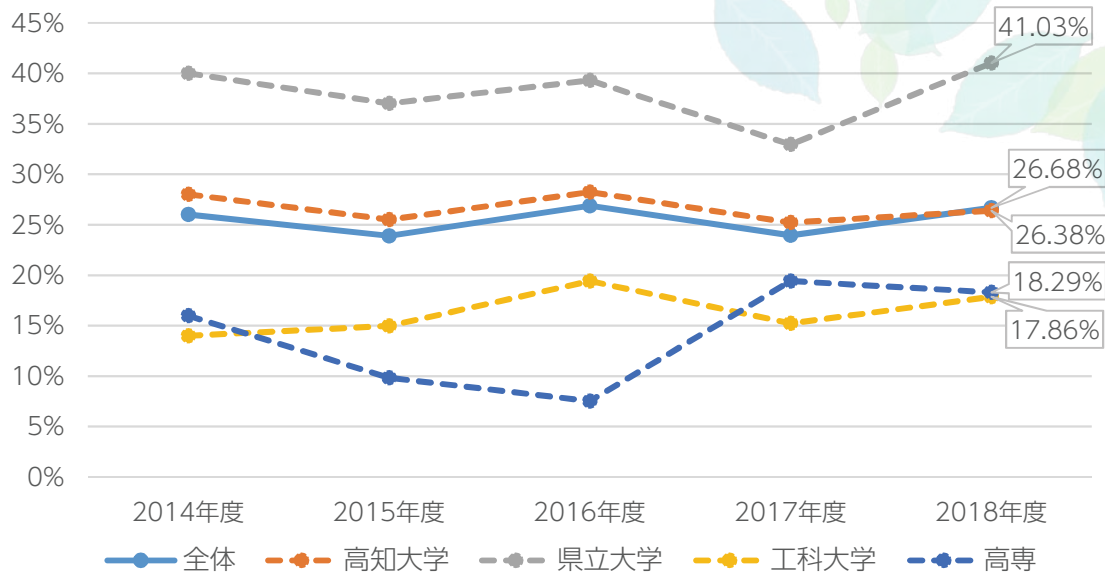
◎ (COC+) フォローアップ現地視察スケジュール表

| 日 時 | | 摘 要 |
|-----------|-------|---|
| 11月19日(火) | 12:30 | 集合場所：JR高知駅北口 |
| | 12:55 | 高知大学次世代地域創造センター到着 |
| | 13:00 | (1) 事前打合せ (現地視察担当委員、事務局随行者等のみ) 場所：高知大学次世代地域創造センター1階東会議室 |
| | 13:15 | (2) 事業参加学生との意見交換 場所：学生空間「One step」 |
| | 14:15 | (3) 教育現場（講義等）・施設等の視察 内容：事業関連現場の視察 場所：「村の駅ひだか」 対応：高知大学 |
| | 15:25 | (4) 事業責任者等からの説明及び質疑応答 場所：高知大学次世代地域創造センター2階セミナー室 対応：高知大学 高知工科大学 高知県立大学 高知工業高等専門学校 高知県 |
| | 16:40 | (5) 講評前打合せ (現地視察担当委員、事務局随行者等のみ) 場所：高知大学次世代地域創造センター1階東会議室 |
| | 16:55 | (6) 講評 場所：高知大学次世代地域創造センター2階セミナー室 対応：高知大学 高知工科大学 高知県立大学 高知工業高等専門学校 高知県 |
| | 17:00 | フォローアップ現地視察終了 |

● 講評

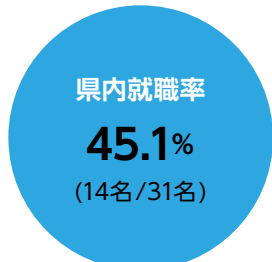
現状の把握は出来た。今後は、地方創生推進士フェーズ1～5についての理工学部や医学部系の繋がりと、その熱量及びCOC+を通じてのプラットフォームの繋がりは出来ているが、それを見える化してほしい。また、COC+総括校として、参加校と繋がりを強くして他のCOC+校のモデルとなしてほしい。

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」により、2015年度から開始した「まち・ひと・しごと創生 高知イノベーションシステム」は、高知県内の産学官連携により推進された。各機関で多くの取り組みが実施されたが、事業目標の一つとして定めた高知県内就職率の各機関平均値の10%増の達成は未だ困難な状況にある。この原因として、全国的な人手不足による全国の企業による人材の獲得競争が繰り広げられているためと考えられる。



しかしながら、本事業の要である地方創生推進士の県内就職率に着目すると、45.1% (2019年4月1日時点：14名/31名) と全体平均26.68%と比較すると顕著に高い実績が得られている。

| 地方創生推進士 32名 (うち大学院進学1名) | | | |
|-------------------------|-------------------------|----------|----|
| | 県内出身者15名 (うち大学院進学1名) | 県外出身者17名 | 計 |
| 県内就職 | 12 | 2 | 14 |
| 県外就職 | 2 | 15 | 17 |



地方創生推進士の認証を取得する学生は、元から県内就職志向の強い学生である可能性は否定できないが、いずれにせよ地方創生推進士の正課・正課外での活躍は他学生にも良い影響を波及することに加え、企業等への周知・理解を深めることで地方創生推進士の採用を前向きに検討いただくことも期待できる。この結果は、COC+事業で得られた貴重な成果の一つと言える。

今後も全国的な人手不足の状況は続くと思われるが、地方創生推進士の育成をはじめ、本事業で培われた経験知やネットワークを活かして、県内学生の県内就職率向上を目指した取り組みの継続が求められる。



文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」(COC+)

**令和元年度まち・ひと・しごと創生
高知イノベーションシステム報告書**

発行日：2020年3月

発行：国立大学法人高知大学 次世代地域創造センター

〒780-8073 高知県高知市朝倉本町2丁目17-47

TEL 088-844-8293 FAX 088-844-8556

印刷：株式会社 高知新聞総合印刷

